

「魅力の日本再発見 Visit Japan Salon」での県産品 PR 及び
「広東国際旅游産業博覧会」でのインバウンド誘客

9月15日から28日の14日間、上海高島屋の7階催事場で開催された「魅力の日本再発見 Visit Japan Salon」に石川県ブースを出展して県産品の展示販売及びインバウンドプロモーションを行いました。このイベントは、日中経済協会や上海高島屋等のメンバーで構成する「日本の魅力発信委員会」（上海総領事館後援）が主催し、日本国内の特産品の販売や文化体験等を通して日本へのインバウンド誘客や地域間交流を促進することを目的としています。今回は「伝統工芸と体験」をテーマとして、日本好きの現地の方を対象に特産品（地酒や菓子等）の試食販売や伝統工芸体験等が実施されました。本県の他に福島県や愛媛県も出展し、地域ごとの特色を PR していました。

石川県ブースでは、日本酒、金箔商品、山中漆器、九谷焼等の販売や観光 PR に加え、金箔貼りと水引作りなどの工芸体験を行いました。特産品の中では、女性やファミリー層を中心に甘酒が人気で、「健康的で美味しそうだからお試しで買ってみよう」と購入される方が見られました。また、内側に金箔が施された九谷焼のお猪口は、お茶や酒を嗜む方のコレクションとして、またギフト用として人気がありました。お猪口の購入者からイベント後に「（購入した商品の）デザイン違いの商品が欲しい」と問い合わせがあり、今後の継続販売の可能性が窺えました。工芸体験については、1コマあたり10名を上限としましたが、予約受付窓口では、予約開始前から行列ができるほどの人気ぶりでした。どの体験も老若男女問わず人気があり、大人も子供も真剣に取り組んでおり、出来上がったときは嬉しそうに写真に撮っている姿が印象的でした。

上海高島屋では、伝統的工芸品等の販売フェア等も企画しており、今後も、こうした機会を通して県産品の PR やインバウンド誘客に取り組んでいきたいと思っています。

■ 広東国際旅游産業博覧会 2024 への出展

9月13日から15日の3日間、広東省広州市において広東国際旅游産業博覧会 2024 が開催され、石川、富山、福井、静岡、愛知、長野の6県が合同で「昇龍道」ブースとして出展しました。中国大陸南方（華南地方）に位置する広東省は、1978年に全国に先駆けて改革開放政策が実施されて以降、自動車など外資系企業を積極的に誘致して製造業の集積地として発展し、現在では日系企業の進出が約3,600社と上海市、江蘇省に次ぐ地域となっています。日本人にも馴染みのある広東料理の本場ですが、中国語で「食在广州（食は広州にあり）」という言い回しがあるほどグルメが多彩な地域で、中国人にも人気の観光地となっています。

この展示会には、50以上の国と地域から約3,000団体が出展しており、来場者数は延べ10万人以上と大変盛り上がり、予想以上の来場者の多さと若年層の旅行に対する興味関心の高さに驚かされました。今回は団体でのブース出展ということで、広域エリアを周遊するためのアクセス方法や旅行商品、お得なチケット情報の案内など共同で実施しました。こうした提案方法は、出展側にとって、他県の情報や県内観光の前後行程等について整理でき、また、来場者にとっても旅行行程を一元的に相談できるため、非常に効果的・効率的で、今後もこうした機会を通じて共同での PR を実施していきたいと各県担当者で話をしました。

この展示会後の国慶節休暇（10月1日～7日）では、中国人の出入国者数は前年同期比 33.2% 増の 760 万人となり、行き先は日本がトップとなりました。中国国内の景気低迷により投資を控えている富裕層が旅行に資金を回しているという見方もあり、依然として重要な市場であるといえます。今後とも、インバウンド誘客への取り組みを継続していきたいと思います。



Visit Japan Salon の展示販売の様子



Visit Japan Salon の工芸体験の様子



広東国際旅游産業博覧会の出展の様子